



世界へ発信！



2つのユネスコ遺産

■問合せ 世界ジオパーク・縄文世界遺産推進室 (☎ 82-3663)

ジオパークは、地球の活動の結果としてできた「大地の特徴」を見どころとしていますが、その上で生きる動植物や、人の暮らし（産業や文化）も、同じく見どころとしています。

洞爺湖有珠山ジオパークでは、活火山である有珠山が数十年おきに噴火し、人間の生活や動植物に大きな影響を与えてきました。

特に火口周辺では、火山灰や泥流によって地面が覆

われ、生態系は破壊されてしまいます。その後、必ず新しい植物が根を張り、新しい森を作り始めます。こうして噴火のたびに森が生まれる有珠山周辺では、森の誕生や成長について観察・研究できる絶好の場所でもあります。

12月に開催する「ジオパークカフェ」では、そんな有珠山周辺の生態系についてお話を聞きます！



24歳の森

西山山麓火口散策路



100歳の森

四十三山フットパス



200歳の森

有珠善光寺自然公園

ジオパークカフェ開催！

有珠山周辺で、「噴火」と「動植物」の関係を研究しているお二人が、これまでの研究成果を発表します。2000年の噴火から間もなく25年。動植物はどのように変化してきたのでしょうか。温かい飲み物をご用意してお待ちしておりますので、お気軽にお立ち寄りください！

開催日：12月21日（土）13：30～15：00

会場：洞爺湖観光情報センター3階 洞爺湖町洞爺湖温泉 142番地

その他：参加費無料、申し込み不要。温かい飲み物サービスがあります！

主催：洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 (☎ 82-3663)

発表1

伊達開来高校 おおひろちかし 大廣恭志さん

2000年の噴火があった西山山麓地点と1910年の噴火があった四十三山地点を比べ、動植物の種類や数がどのように移り変わってきているかを調査しました。その結果を報告します！



発表2

北海道大学大学院環境科学院

MANDAL Piyaさん

1977～1978年の有珠山の噴火では、山頂部の植物は壊滅的な被害を受けました。しかしその後の植生回復で土に埋もれた種子が重要な役割を果たしていたことがわかりました。噴火から45年間眠っている種子の生存状況を含めた最新の研究成果を報告します！ ※オンライン・英語発表です。日本語の資料を配布します。

